

11月の安心かわら版



11月の主な行事

3日：文化の日

15日：七五三

7日：立冬

23日：勤労感謝の日



紅葉の仕組み～秋にならなくても紅葉する？～

樹木はなぜ紅葉するのでしょうか？

夏の日が長く暖かいとき、「葉」は光合成により栄養をつくります。また葉の表面から水分を蒸発させることで根からの水分の吸収を促し、体内の水分を循環させています。しかし、夏から秋にかけて日が短くなり気温も下がってくると、樹木は周りから十分なエネルギーを得ることができなくなります。さらに夜間の気温が10℃前後になると、樹木は活動を抑え休眠状態にはいります。

そうすると葉はいりません。樹木は「もう葉は必要ない」と判断すると、葉と枝の間に「離層(りそう)」という仕切り(コルク層)をつくります。その仕切りによって樹木と葉の間で養分が循環しなくなります。紅葉はこの時から始まります。仕切りがつくられ、葉と樹木のあいだで養分が循環しなくなると葉に含まれる成分が変わり葉の色に変化が生じます。これが紅葉のメカニズムです。

葉に含まれる色素には緑色のクロロフィル(葉緑素)、黄色のカロチノイド(カロチン類とキサントフィル類)があります。夏はクロロフィルの量がカロチノイドよりずっと多いので、黄色は目立たず葉は緑色に見えます。そして秋、気温が低くなると葉のはたらきが弱まり、クロロフィルが分解されます。そのためクロロフィルに隠されていたカロチノイドの色が目立って黄色になります。イチヨウやポプラの葉が秋に黄色になるのはそのためです。

一方、葉柄の付け根に作られた離層のため、葉の中の物質が茎に異動できなくなり、光合成で生産された糖は葉に留まることになります。この糖から赤い色素のアントシアニンができて葉は赤くなります。これが赤くなる仕組みです。

アントシアニンの合成には、温度と光の条件が重要で、1日の最低気温8℃以下になると紅葉が始まり、5～6℃になるとぐっと進むといわれています。

鮮やかに紅葉するには、日中の気温が20～25度で夜間は5～10℃になり、昼夜の気温の差が大きいこと、空気が澄んで葉が充分日光を受けられることや、大気中に適度な湿度があって葉が乾燥しないことなどがが必要です。秋晴れ後の夜間に急激に気温が下がると紅葉が進むのはこのためです。

これからもっと寒くなります。

体温調節のできる服装を選び、適度な運動やストレッチを心掛けましょう。

ちなみに寒暖差によって、人体が影響を受ける気温差の目安は、7℃以上と言われています。



保険のレジアス

レジアスインプクト(株)本社 〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-5-17 3階

TEL 049-256-5885 FAX 049-256-8558

レジアスインプクト(株)関西本部
kansai@rezeous.co.jp

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町11-9 9階
TEL 06-4303-4193 FAX 06-4303-4194

レジアスインプクト(株)秩父支店
chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21
TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

レジアスインプクト(株)本庄支店

〒367-0041 埼玉県本庄市駅南2-28-12
South450 401号
TEL 0495-71-5831 FAX 0495-71-5832

レジアスインプクトでは、保険のことはもちろん！
将来の不安や身近なお困りごとまでいつでも相談受付中です